

愛産研 ニュース

愛産研ニュース
平成 16 年 8 月 5 日発行
No.29

編集・発行
愛知県産業技術研究所 企画連携部
〒448-0003 刈谷市一ツ木町西新割
TEL 0566(24)1841・FAX 0566(22)8033
URL <http://www.aichi-inst.jp/>
E-mail info@aichi-inst.jp

8 月号
2004

今月の内容 常滑焼の伝統と明日
最近の光触媒の動向について
無機系廃棄物を活用したヒートアイランド対策用保水建材の開発

常滑焼の伝統と明日

常滑では、中部国際空港の開港を間近に控え、空港開港によって知名度も上がり、訪れる人も格段に増加が見込まれるところから、地区において様々なビジターズ産業への取り組みがなされています。常滑窯業技術センターでも、観光土産品の開発を 15 年度から特別課題研究として実施してきました。常滑の観光スポットの中でも近年とみに観光客の伸びを見せ、話題になっているのが、やきもの散歩道です。軽自動車ですら入れないようなせまい町並みに、古くからの陶業の町らしい趣があふれ、やきもの探訪を目的とする観光客の途絶えるときがありません。

常滑地区の生産品目は茶器、食器、盆栽鉢、干支置物などですが、どちらかという、非量産型の手工芸品であるということがいえます。これらの製品には、優れた伝統技術・技法が受け継がれており、茶器一つをとっても、高度な手ろくろ技術、細字の印刀彫り、水に溶いた化粧土で細密な絵を描くた絵、数種の色土を用いて偶然の模様を作り出す練込技法とそのカット技法、茶こし部分の小さな半球体に 300 個もの穴をあける精密な細工、独特の光沢を生み出す研磨技術等、他にはまねのできない高度な技術や技法が盛り込まれています。

当センターではこのような技術・技法を、後に続く世代の参考になるようにと、地区業界組合の協力を得て、調査・記録事業に着手しました。これには日本福祉大学社会連携課の賛同も得られ、若いスタッフが補助員として参画しています。このような作業を通じて、私たちが普段何気なく手に取っている製品にも、きめ細かな配慮や熟練の手技がひそんでいることに改めて感動を覚えます。

このような製品には伝統の持ち味が色濃く反映され、デザインにも一定のパターンが多く見られます。細字の印刀彫りであれば、その題材は般若心経や百人一首、絵柄であれば松竹梅を始めとする和風の植物柄が目立ちます。抽象模様や幾何学模様で現代感を盛り込んだ商品ももちろんありますが、奇抜なデザインは多くありません。生活者もまた、こうした伝統色を常滑焼として認識する傾向があるので、産地として新しいものへの取り組みには極めて慎重であるという気風が存在します。

伝統はただ遵守するだけでは発展性がなく、常に新しい視点で捉え直すチャレンジ精神が必要かと思えます。当センターも、15 年度の研究試作品で、和風のデザインに洋風テイスト（筆記体の英文、バラの花等）を取り入れことにより、エキゾチックな東洋趣味として、若い女性市場にも受け入れられるようなものはできないか、従来の練込土の固有色である暗濁色を離れ、清明でカラフルな色彩にしたらどうなるか等、数々の試みを行いました。

